

輝く卒業生たち

湖南市立三雲小学校

矢田 仁さん

Profile

滋賀県出身。2025年3月教育学部初等教育コース初等教科専攻算数専修卒業。同年4月湖南市立三雲小学校に着任。学生時代はバドミントン部に所属し、OBとの練習と交流で磨かれたコミュニケーション力は、学級運営にも大きく活かされている。学生時代を共に過ごした親友は隣町の小学校の教員となり、互いに刺激し合う存在。学校への信頼と安心を高めるため、「学級通信」の作成にも力を入れることが目標。

小学校時代のあこがれの恩師のように 児童にも保護者にも信頼される教員をめざす

地元で教員になるために 縁もあった滋賀大学に進学

小学5年生の時の担任の先生にあこがれて教員をめざしました。先生は勉強はもちろんのこと、休み時間は一緒に遊び、何でも相談にのってくれ、さらには学級での出来事や児童一人ひとりのがんばりを記した学級通信を保護者にほぼ毎日配布するなど、熱心に向かい合ってくれました。このことがずっと心に残り、先生のようになりたいと思いました。滋賀県で小学校の先生になりたかったので、県内での採用率が高い滋賀大学教育学部を志望しました。また、私は父方・母方の祖父母が教員という家庭に育ち、さらに母方の祖父母が滋賀大学教育学部出身で、あこがれの先生も卒業生だったことも進学を決める後押しになりました。

数学の研究で養った思考が 学習計画の糧に

大学では得意科目の算数を専攻し、長谷川武博先生のゼミで研究にも打ち込みました。テーマは四次元以上の高次元空間を数と構造を手がかりに三次元、二次元で捉える研究です。単に解を求めるのではなく、なぜその理論に至るのかをロジカル、クリティカルの双方から考えることを学びました。教員になった今、この思考習慣は授業を計画する際に「この説明で理解できるのか」「板書で提示した図解は視覚的に有効なのか」など、指導方法を児童目線でも見つめ直すことにつながっています。在学中、近隣の小学校で学習・生活の支援や、校外学習に帯同するボランティアをしたことも、教育現場における教員の役割や児童の様子を知るうえで有効な経験となりました。



教育学部出身の先輩たちを モデルに教員として成長

教師1年目の昨年は、4年生の担任という挑戦から始まりました。高学年へと成長していく第一段階で、学習内容もクラス内の社会性や人間関係も深くなっていく時期です。指導の難しさも実感しましたが、児童と一緒に成長していこうと日々奮闘した1年でした。そんな中でうれしかったのは、算数が苦手な子に算数を学ぶ意味と大切さを丁寧に伝えたと、前向きに取り組んでくれるようになったことです。また、お楽しみ会で私への感謝の手紙を読み、サプライズの寄せ書きを贈ってくれたことは、今後も忘れたくない思い出です。めざすのは児童に寄り添い、保護者にも信頼される教員です。そのためには授業や指導の質をさらに高めることが必要ですが、勤務先の小学校には滋賀大学出身の先輩が在籍しているので助言をいただいています。また、今も教壇に立つあこがれの先生は、何かと相談できる心強い存在です。周囲にロールモデルが多いことも、滋賀大学教育学部で学べてよかったと思います。

